

きらボ通信

第8号（2012年5月）

明星大学ボランティアセンター（愛称：きらきらボランティアセンター）

特集：2011夏の学生ボランティア活動報告会

新しい風と共に

黒岩 誠
（人文学部心理学科教授）



新しい時代のにおいがします。

私は争いごとが嫌いで、競うスポーツも好きではありません。そんな私が、ハンカチ以外のポケットのものをすべて出して、弁護士の電話番号だけを脳みそにきざみ込んで、ヘルメットをかぶって、角棒を持って、切符を買わずに、みんなで地下鉄の改札を通り抜け、池袋の町へ行きました。1970年になろうとする時代でした。そうすることで、社会の進む方向を修正することができるかもしれないと思っていました。たたかれても、踏みつけられても、怒りの感情は起こらないで、むしろ、むなしい気持ちに支配されていたのを覚えています。その後、高度成長が行き着いて、バブルがはじけましたね。

あのころの激しさは感じないのですが、あのころと同じような何かがきしむようなにおいを感じています。神様の意思といってもいいし、自然の脅威といってもいいのですが、どうにもならな

い大震災が起こりました。神様でも壊せないと思って作った便利そうな毒の入れ物はいつも簡単に壊され、私たちは遺伝子を壊すだろう毒と未来永劫戦うことになりました。バベルの塔の建設は諦めざるを得ません。考えてみれば、便利さは、まるでゲーム中毒のように一人ひとり一人であることになれさせ、ふと気づいてみたら、手を差し伸べられるところには誰もいなくなってしまいました。たとえ暗闇の中にいたとしても、ちょっと手を伸ばして探してみれば、人の温もりの感じられる、そんな時代を作り出すチャンスがやってきたと思いませんか。私たち、これをご覧くださる人々は、これから混沌の中を、試行錯誤を繰り返し、一番いいものを選び出して新しい時代の礎を築くフロンティアにならざるを得ないのでしょうか。きらボに集う人たちが世の中を動かしていく中核になるのだと確信しています。

2011 夏の学生ボランティア活動報告会

—実施報告—

- ①日時：平成 23 年 10 月 4 日(火) 18:10~19:30 交流会 19:45~20:30
- ②会場：28 号館 1 階プレゼンテーション室(100-3)
交流会：大学会館ボランティアセンター室
- ③コメンテーター：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 神埼愛子氏
- ④報告団体：東日本大震災ボランティア活動、へき地教育研究会、どろんこの会、クローバー、MCAT、ひまわり、BUKAS
- ④参加者：85名（交流会約50名）
学内参加者 78 名/学生 67 名、教員 3 名、職員 8 名）
学外参加者 7 名/実践女子大学ボランティア同好会 5 名、日野市社会福祉協議会 他

昨年に引き続き「夏の学生ボランティア活動報告会」を開催しました。今年は、助言者として公益社団法人シャンティ国際ボランティア会から神埼愛子国内事業課長にお越しいただき、学内の福祉、教育、環境などさまざまな分野の6つのボランティア団体と、東日本大震災ボランティア活動を行った方々が、「学生ボランティア活動のめざすものと課題」をテーマに、思い出深い夏の活動報告をしました。学内外85名の参加者で、プレゼンテーション室がいっぱいになりました。終了後、きらボでの交流会も盛り上がり、昨年以上の楽しさでした。

参加していただいた皆さん、
ありがとうございました！



募金活動について紹介した
泉田正悟さん



たくさんの方が報告を聞きに
いらしてくださいました。



MCATの榊原里奈さん



【総 評】

神崎 愛子（公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 国内事業課長）

皆さん始めまして。シャンティ国際ボランティア会の神崎と申します。皆さん報告お疲れ様でした。報告を聞かせていただきながら、大学1年生は初々しく、4年生はしっかりとしていて、4年間でこんなに変化があるものかと感じました。皆さんの報告への一言コメントをさせていただきます。

・東日本大震災ボランティア活動報告

① 募金活動

近隣での募金活動はなんだか恥ずかしい思いをしたかもしれませんが、決められた日時で行うことを、地域の方に知っていただける取り組みは良いと思いました。

②被災地（石巻市）での活動

地元に戻って仕事をされるとお聞きしましたので、心強いと思いました。

・へき地教育研究会

子どもたちの様子が伝わり、その後も交流が繋がっているのが良いと思いました。

・初等教育研究会 どんこの会

つながりがある団体が12団体。それにつながる人たちの輪は大きく、大勢の方々と活動をされていて良いと思いました。

・クローバー

イベントに出展したり、環境に関わる団体が少ないとのことで、その分野に取り組んでいるのは良いと思いました。

・MCAT

活動ができなかった時期の気持ちが良く伝わってきました。助成金によって活動を進めておられ、地域密着の活動でよいと思いました。

・ひまわり

活動のプログラムを変えていること、得技習得という取り組みは面白いと思いました。

・BUKAS

映像を使つての報告はビジュアル的に伝わりやすく良かったと思いました。



私が所属しているシャンティ国際ボランティア会はアジアの子どもたちのために教育・文化支援をしている国際NGOです。海外でボランティア活動に参加したのは、大学の先輩に「1ヵ月10万円でフィリピンへ行かない？」と誘われて連れて行ってもらったフィリピンワークキャンプでした。その経験をきっかけでアジアに興味を持ち、現在の仕事につながっています。ボランティアを通じて多くの方との出逢いがありました。

大学生の皆さんは様々な活動に取り組まれています。皆さんの強みは若さ、柔軟な心と体だと思います。その反面弱みとして挙げられるのは、取り組みに対する評価、洞察力だと思います。これらは社会経験を身につけていかれるのではないのでしょうか。世の中には「手助けを求めている人」と「手助けをしたい人」がいます。私たちNGOはその間に立つてつなぐ役割をしていますが、みなさんは手助けをする側にも、その間になってつなぐ役割にもなれると思います。今日は、それぞれの思いがある活動を他の人に伝えるというプレゼンの機会は、良い経験になったのではないのでしょうか。今後も活動を通じて多くの人との出逢いを大切にしてください。

これからの皆さんの活躍に期待しています。お招きありがとうございました。

(1) 東日本大震災ボランティア活動報告

《募金活動・災害ボランティア体験》

泉田 正悟 (日本文化学科 1年)

坂本 翔吾 (日本文化学科 1年)

1. 「東日本大震災被災者支援募金活動」

実施日	4月～9月、毎月11日に実施、来年3月まで実施の予定
時間	10:00～12:00
場所	京王線高幡不動駅構内
募金方法	日野市社会福祉協議会を通して募金の許可申請をし、当日は明星大学の腕章や統一ユニフォームを身につけ、指定された募金箱にて活動
参加学生	MCA T、めばえの会、野球部、一般学生有志 常時15名程度で活動
募金総額	493,084円 (9/11現在)
募金の流れ	募金活動終了後募金箱封印 → 大学にて職員立会いの下金額確認 → 日野市社会福祉協議会へ入金 (持参) → 領収書受理 → 日野市社会福祉協議会から中央共同募金会 → 被災地 → 被災者

2. いわき明星大学との合同「災害ボランティア体験」

実施日	8月26日(金)、27日(土)
行先	福島県いわき市
参加学生	学生13名、教職員8名
内容	被災地視察(久ノ浜、湯の岳断層) 森の自然とのふれあい体験 草刈り等



《被災地での活動》

佐々木 涼 (経営学科 4年)

1: はじめに

生まれ故郷である宮城県石巻市へゴールデンウィークの期間中にボランティア活動をしに行ってきました。と同時に、家族が避難していた石巻市立石巻中学校に支援物資を寄付させていただきました。その費用は、震災翌日に友人から個人的に寄付していただいた義援金を使わせていただきました。

2: ボランティア活動の概要

活動期間: 平成23年4月26日(火)～5月8日(日)

活動場所: 石巻市立石巻中学校(石巻市泉町4丁目7番15号)および石巻市内・本吉郡南三陸町内

活動内容: (避難所内)避難所内雑務、交通誘導、炊き出しの運営等

(避難所外)がれき撤去、掃除等

支援物資: 単1乾電池100本、単4乾電池100本、ゴミ袋等日用品

3: その後(夏休み)

夏休みに海岸沿いにあるお墓に行ってきました。がれきはきれいに撤去してありましたが、倒れている墓石がたくさんありました。

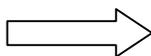
4: 協力団体

NPO石巻復興サポートセンター <http://ameblo.jp/isc311/>

石巻市役所 <http://city.ishinomaki.lg.jp/>



5月



4



10月

(2) へき地教育研究会

藤井 理 (心理・教育学科教育学専修 3年)

山城 悠也 (教育学科 1年)

わたしたちへき地教育研究会は、夏休みに新潟県の栃窪小学校、群馬県の倉渕子ども園、滋賀県の杉野小中学校、和歌山県の河根小学校・幼稚園の4つの学校と2つの園に各グループに分かれて1週間活動してきました。

各学校では、普段の授業に子どもと一緒に参加したり、学生自ら企画した体験活動や模擬授業もやらせていただきとても有意義な1週間を過ごすことができました。この中で滋賀県の杉野小中学校での活動の様子を紹介したいと思います。

滋賀県の本之本という場所にある杉野小中学校は小学校と中学校の併設校でした。1日目は学生も子ども達と初対面でお互い緊張していたので、緊張をほぐすため「対面式」というものを行いました。対面式では自己紹介を兼ねたゲームを子ども達と一緒に行いました。このゲームで学生と子ども達との距離は一気に縮まりました。

わたしたち学生は基本的にクラスに一人入り、子どもと一緒に勉強していました。授業を見学するだけでなく、時には授業に参加したり、子ども達に教えたり、また模擬授業をやらせていただいたりと貴重な体験をすることができました。休み時間や給食の時間も子ども達と一緒に活動し、下校も一緒に行いました。

合宿最終日は杉野小中学校の運動会だったので学生も参加してきました。準備や片付け、運動会の補佐などを手伝っただけでなく、綱引きやリレーにも参加させていただきました。

1週間杉野小中学校で活動していった中で、へき地特有の教育方法や学校経営、地域とのかかわりを見ることができました。また、模擬授業など貴重な経験をさせていただき、そして何より杉野小中学校の職員の方々や子ども達と一緒に過ごした1週間はとても有意義な1週間となりました。この1週間で素敵な夏の思い出を作ることができました。



(3) クローバー

佐藤 秀樹 (環境システム学科 3年)

1) 東光寺緑地における雑木林保全活動

部員全員で、今夏も日野市東光寺緑地で竹の伐採や下草刈りを行い環境省の絶滅危惧Ⅱ類のバアソブの保全などの活動を行ないました。

2) 野川流域保全活動

東京都環境局からの依頼により、勝矢君が野川流域保全活動に参加しました。

3) あきる野市屋城小学校でのサマーキャンプボランティア活動

あきる野市青少健屋城地区主催のサマーキャンプで小学生と一緒に野外活動を行ないました。

4) あきる野市でのサツマイモ植え

部員全員で、あきる野市の耕作放棄地にサツマイモを植えて育て、収穫したイモを星友祭で販売予定。

5) 日野市雑木林ボランティア講座受講

日野市役所主催の、雑木林ボランティア養成講座にクローバーの2年生全員で参加し、雑木林保全ボランティア(日野市)の資格取得を目指しています。夏休みには、日野市内の緑地の見学会や日野市環境情報センター、明治大学の先生、昆虫学者などの講演会を聴講しました。

6) 日野市学生フォーラムで発表

都市農業研究会主催の日野市学生フォーラムで、緑地や農地について他大学との意見交換とワークショップを行い、交流しました。

7) ヒートアイランド学会で発表

副部長の洲崎君が筑波大学で開催されたヒートアイランド学会でクローバーの活動報告を行ないました。

部員からの意見

夏の草刈りは暑くてすごく大変だったけどすごく運動になったし目に見えて草刈りの成果がわかるのでよかったです。(環境1年・高木)
子供たちと関わりが持てるようなボランティアは、より楽しさが増しているように思いました。(環境2年・窪田)

他大学の方や色々な方と繋がりができ、色々な職種の方から意見を聞いた事は、本当に良い経験になりました。(環境2年・洲崎)

久しぶりに小学生の無垢さにふれられ、楽しく過ごせた時間でした。たった1日でしたが、翌日の解散時に数人の子が駆け寄って来てくれたことがとても嬉しかったです。自然環境に関する講座を、毎回違う専門家や他大学の教授に受けられることはとても貴重な経験だと思います。フィールドワークもあるので、季節ごとに変わった環境での講義はとても楽しいです。(環境2年・三根)

今後の活動予定としては、月1回東光寺緑地で活動したり、12月15日～17日には東京ビックサイトで開催する日本最大の環境イベント「エコプロダクツ展」に出展したりして活動報告を行います。



東京都公園協会賞奨励賞(ボランティア活動部門)受賞!



日野市雑木林ボランティア講座受講(日野市南平丘陵公園にて)

(4) ひまわり

永野 有華 (教育学科 2年)

ひまわりは2008年に発足したサークルです。大学のすぐ近くにある七生福祉園というところを拠点とし、その中でも自閉症やダウン症などの知的障がいのある3歳～小4の子どもが入園している低年一寮で月に2回活動しています。

活動では、前半に外遊びをし、後半に中遊びをします。外遊びでは、園庭で子どもたちと自由に遊びます。中遊びでは、絵本の読み聞かせ、工作、手遊び歌や体操など、学生が計画した遊びを毎回行っています。活動の前には放課後ミーティングを行い、遊びの内容を決めます。安全面に考慮して、子どもたちがはさみ、液体のり、マジックなどの危険と思われる道具は使わずに楽しめるような遊びや工作を計画し、準備をしています。また、事前に子どもの予想される行動を話し合い、

それについての対応策も考えてから活動に臨みます。活動後には、活動中に気付いた子どもの気になる部分や改善した方が良い点を話し合う反省会を行い、職員さんにもアドバイスをいただきながら今後の活動につなげています。

また今年から、高校受験を控えた七生福祉園の子の学習支援も行っています。内容は主に国語、算数、面接、作文の指導です。メンバーでローテーションを組み、工夫を凝らしながら指導しています。今後は受験にかかわらず、日常で使える勉強を子どもたちに教えていく予定です。

これからもひまわりは、子どもたち一人ひとりを理解することを大切にし、子どもも学生もみんなが笑顔になれる楽しい活動をしていきたいと思っています。



(5) MCAT

榊原 里奈 (人間社会学科 3年)

防犯ボランティア隊MCATはMCAT (Meisei Community action team) という名前が指す通り、地域のために活動する防犯を主としたボランティア団体です。

2010年6月30日に発足し、日野警察生活安全課と日野市防犯安全課のご指導のもとに毎週火・水・木曜日や授業の空き時間に活動しています。主な活動としては大学周辺の住宅街のパトロール及び環境美化活動、大学近隣にある夢ヶ丘小学校の下校サポート、その他駅前などで行う防犯啓蒙運動(振り込め詐欺防止呼び掛け運動や飲酒運転撲滅キャンペーンなど)や募金活動等を行っています。

防犯活動というとパトロール活動のようなイメージが先行しがちですが、切り口やアプローチの仕方は多種多様にあり、MCATでは地域で行われる市民の集いのお手伝いや防犯啓蒙寸劇など、少し変わった活動も行っています。

また、MCATは警視庁主催のピーポーズという防犯団体にも参加しています。

防犯ボランティアという分野における若い世代の活動人口は極めて少なく、全国的にその必要性が叫ばれています。MCATはそんな防犯ボランティアという分野において、若い世代の先駆けのような存在になれたらと思っています。



学校周辺の住宅街見回り



日野市市民のつどいでの防犯寸劇



夢ヶ丘小学校の下校サポート



一人暮らしの老人宅訪問
(振り込め詐欺防止呼びかけ)

(6) BUKAS カンボジアボランティアスタディーツアー

伊藤 有紀 (教育学科 1年)

柴森 めぐみ (教育学科 1年)

私たち BUKAS は夏休みにボランティア・スタディーツアーでカンボジアに行ってきました。東南アジアの中でも最貧国と呼ばれ、悲しい歴史を持つカンボジアの現実を、実際に自分たちの目で見たい。そして、カンボジアの子どもたちと純粋に関わりたい！そういう思いで行って来ました。

私たちはやまなみフリースクールで子どもたちと触れ合い、NPO 法人かものはしファクトリーを見学し、PSE のスポーツ大会に参加しました。一日目、子どもたちと仲良くなりたくて声をかけたいのに、最初の一言が出できませんでした。子どもたちの名前を聞くこともできず、言葉の壁を痛切に感じました。できることは笑顔で見つめ合うことだけでしたが、次第に心が通い合い身を以て笑顔の力を実感しました。また、カンボジアの辛く、悲しい現実も見てきました。ポル・ポト政権時代に起きた大量虐殺の歴史や、人々の貧困・格差。カンボジアの現実を目の当たりにし、考えさせられたことがたくさんありました。人間のあたたかさや、素晴らしさを心の底から感じると同時に、人間の愚かさも感じました。いったい、私たちにとって本当の幸せとはなんなのか、大切なものとはなんなのか、改めて考えさせられました。

みなさんにとって、大切なものは何ですか？きっと、カンボジアの子どもたちにとっては、持っているもの、見るもの、感じるもの全てが、大切なものなのではないでしょうか。

ほとんどの子どもが 20 歳くらいまで学校に行ける日本のような国は、本当に恵まれたごく一部の国にすぎません。もちろん、親を選べないように、どの時代の、どの国の子どもに生まれるのかも選べません。この選べない「偶然」にどれだけの責任を感じるか。恵まれた環境にある人ほど、そういう自覚が必要だとこの旅を通して強く感じました。

学生の私たちにいったい何ができるのか。できることは、小さなことかもしれないけど、今回の活動で一步を踏み出す大切さを知りました。日本で生活していると当たり前のように感じるものが、カンボジアでは違いました。少し日本を離れたただけなのに、すぐ側にある普通が本当に貴重に思えました。恵まれた環境にいる私たちだからこそ、目の前にある普通に感謝し、日々の生活を精一杯送っていきたいと思います。



学生ボランティア活動に期待するもの

川原 万人（情報学部情報学科講師）

昨年3月11日の東日本大震災直後には、被災した自治体の受け入れ準備ができていないとか、経験のあるNGOやNPOが現地で活動の基盤を作らなければ現地が混乱するとかの理由で、ボランティア活動の自粛を命令するような報道が随分ありました。はたしてボランティア活動とは、自治体を含めたどこかの誰かが音頭を取っている活動に参加することなのでしょうか？あるいは、実績のあるNGOやNPOのもとで無償の労働を提供するものなのでしょうか？

確かに、津波とその後の火災で多数の犠牲者があった、甚大な被害を受けた地域では、自衛隊や消防隊のような高度に訓練を受けたプロ集団しか活動ができないことは明白です。しかし、そのほかの地域まで一律に「自粛せよ（この言葉は日本語として矛盾していますが）」というのは間違っていると云わざるを得ません。

東日本大震災のような天災のみならず、犯罪や事故による怪我人の救助といった突発的なことから、さまざまな障害者の支援のような継続的で長期に渡ることまで、ボランティア活動はその行動を起こす人の善意と知力と行動力により、自力では解決できない困難に直面した人の明日への希望を支えるものであるべきです。その目的のた

めに集まった人々が、自律的に連携して動くなから生まれてくるのがボランティア団体であるはずで

このことを踏まえて、ボランティア活動に興味関心のある学生の皆さんには、次の五つのものを持って欲しいと思います。まずは、人を思いやる「心」です。つぎは、本当に困っているのは誰かを見極める「目」です。三つめは、その人たちに対してどう行動すべきかを論理的に考え判断するための「頭」です。四つめは、実際に行動するための丈夫な「体」です。そして最後は、周囲と連携するための筋の通った言葉を発する「口」です。

この五つのものを持つ学生によるボランティア活動は、例えばすぐに自粛の嵐が起こる今の日本では、恐らく非常に大胆な行動とみなされることになるでしょう。しかし、この大胆さこそ、地に足のついたボランティア活動の証であると信じます。つまり、私が学生ボランティア活動に期待するものとは、理のある大胆さです。

と書きながら、私にもこれはなかなか実践できないな、とも思っています。



ボランティア活動表彰など

今年、きらきらボランティアセンターや、ボランティアセンター所属のサークルが外部で賞を受賞しました。日頃の学生達の活動が外部でも高く評価されています。

ボランティアサークル「ひまわり」ナジック賞受賞

「ひまわり」は七生福祉園の低年1寮の子ども達と学生が考えた遊びで遊んだり、高校受験をひかえた子どもたちへの学習支援を行ったりしています。活動先から厚い信頼を得ていることや、メンバーがひまわりの活動以外にも学内・学外問わず精力的にボランティア活動を行っていることからこの度の受賞に至りました。

ナジック賞とは

ナジック賞とは平成15年度に開設された財団法人学生サポートセンターが主催する助成制度です。大学生の社会参加の第一歩となり、社会をより良くしていこうとするリーダーシップの芽生えとなる学生ボランティア活動を支援しています。

ボランティアサークル「Rainbow sign」 ソニーマーケティング学生ボランティアファンド入選

「Rainbow sign」は学内では唯一の手話サークルで、手話を練習し、立川聾学校の子供達とドッジボールをするなどして交流を深めています。

ソニーマーケティング学生ボランティアファンドとは

ソニーマーケティング株式会社が主催する制度で平成13年に設立されました。大学生の社会貢献活動を支援し、社会をより良くしていこうとするリーダーシップの芽生えとなる学生ボランティア活動を支援しています。過去には「ひまわり」、「あすなるの会」も入選しました。

明星大学きらきらボランティアセンター 日野市社会福祉協議会により表彰

ボランティアセンターでは日野市社会福祉協議会が行う「3.11を忘れない義援金活動」に協力し、1年間毎月11日に高幡不動駅前にて被災地支援の募金活動を実施してきました。そのことが高く評価され、2月に行われた「福祉のつどい」にて表彰状をいただくことができました。

☆センター活動報告☆

ここでは 2011 年 10 月以降の本センターの主な活動と、学生教育ボランティア参加者数、ボランティアセンター団体登録の状況について報告します。

2011 年 10 月から

月	日	行事等
10	4	2011 夏のボランティア活動報告会 (27-100-3) 及び交流会 (きらボ) 参加者：報告会 85 名、交流会 50 名 日野市福祉協議会へエコキャップ 23Kg 訪問：日野警察生活安全課
10	6	第 5 回手話講習会 (参加者 15 名)
10	10	「防犯市民のつどい」参加 七生公会堂
10	11	募金活動 高幡不動駅改札前
10	12	夢が丘小学校声かけ/読売新聞社取材
10	13	日野市福祉協議会へエコキャップ 10K g
10	14	来室：日野市障害者施設交流会部会
10	18	第 6 回学生ボランティアグループ会議 来室：日野市社会福祉協議会
10	19	MCAT/読売新聞社取材
10	20	日野市福祉協議会へエコキャップ 23K g 第 6 回手話講習会 (参加者 7 名)
10	28	
10	～	星友祭参加 出店「きらボのお店」 (日野わーく・わーく、日野療護園、日野市環境保全課と協力)
10	30	
10	31	来室：日野市環境保全課。
11	2	来室：13：00～日野市観光協会 2 名
11	8	第 7 回学生ボランティアグループ会議
11	11	訪問：日野市安全協会
11	14	ネットワーク多摩 平成 23 年度学生教育ボランティア担当会議
11	17	第 7 回手話講習会 (参加者 7 名)
11	22	第 8 回学生ボランティアグループ会議
12	1	第 8 回手話講習会 (参加者 5 名)
12	7	第 4 回ボランティアセンター運営委員会
12	15	第 9 回手話講習会 (参加者 13 名)
12	21	日野市福祉協議会へエコキャップ 9.2Kg
12	22	来室：日野警察署 生活安全課

1	12	訪問：マザアス
1	19	第10回手話講習会（参加者7名）
1	20	第9回学生ボランティアグループ会議
1	27	感謝のつどい（参加者80名）
2	2	第11回手話講習会（参加者7名）
2	16	第12回手話講習会（参加者7名）
2	22	来室：日野市社会福祉協議会
2	24	第5回ボランティアセンター運営委員会
2	29	来室：警視庁本部、日野警察生活安全課
3	6	来室：日野警察
	7	いわき明星大学との合同ボランティア活動（いわき）参加者33名
3	～	活動先/福島県立朗学校平分校、交流スペース「ぶらっと」（シャプラニール）、
	8	いわき市フラワーセンター
3	9	来室：日野警察生活安全課
3	14	第13回手話講習会（参加者7名）
3	22	来室：日野市環境保全課
3	26	ノートテイク講習会（参加者10名）
3	28	第14回手話講習会（参加者7名）

2011年度学生教育ボランティア参加者数

2011年度	55名
--------	-----

明星大学は、ネットワーク多摩に加盟している36大学中、参加者数が1位です。

注：「学生教育ボランティア」； 社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩が主催している。ネットワーク多摩に加盟している多摩地域の36大学が、加盟行政の小・中学校の教育現場で「お兄さん・お姉さん」先生として授業のサポートやクラブ部活の補助などをしてくれる大学生の事です。

◆ボランティアセンター登録団体（2012年5月末現在）

学内	19団体	①教育研究部 ②ボランティアサークル「めばえの会」
		③初等教育研究会 どんこの会 ④ボランティアサークル「SMILY」
		⑤ I dear 研究会 ⑥朝日キャンブ ⑦ひまわり ⑧へき地教育研究会
		⑨児童文化研究会「人形劇団まめ」 ⑩BUKAS ⑪Star☆shops
		⑫防犯ボランティア隊MCAT ⑬「Rainbow sign」 ⑭Meisei Clean Project
		⑮緑地環境保全ボランティアサークル「クローバー」
		⑯NPO 法人フレンドシップキャンブ ⑰Merci ⑱大道芸団マアム
		⑲N. G. I（ネットワーク多摩学生委員会）

学外	86 団体	<p>1：障害児放課後活動クラブオンリーワン（府中市八幡町） 2：NPO 法人 Filo（多摩市落合） 3：NPO 法人 Hope Scoop Asia（福生市本町） 4：「めばえ」の会（青梅市新町） 5：コシヒカリの郷南魚沼市自然体験村実行委員会（新潟県魚沼市六日町） 6：日の出町ボランティアセンター（西多摩郡日の出町） 7：NPO 法人日本子守唄協会 東京多摩支部（福生市加美平） 8：社会福祉法人武蔵野会 すぎな愛育園（八王子市台町） 9：ひの市民活動団体連絡会[ひの市民活動支援センター]（日野市日野） 10：日野市立つばさ[自立訓練・就労]（日野市旭が丘） 11：日野市立やまばと[地域活動支援]（日野市旭が丘） 12：NPO 法人なかよし会 なかよしクラブ（三鷹市牟礼） 13：あさやけ作業所（小平市小川） 14：NPO 法人全国移動サービスネットワーク（世田谷区船橋） 15：ひの炭やきクラブ（町田市小山町） 16：水と緑の日野・市民ネットワーク[みみネット]（日野市日野本町） 17：児童養護施設れんげ学園（東大和市芋窪） 18：都立多摩桜ヶ丘学園 島田分教室（多摩市中沢） 19：社会福祉法人 東京光の家（日野市旭が丘） 20：社会福祉法人 夢ふうせん 工房夢ふうせん（日野市旭が丘） 21：東京都 日野療護園（日野市落川） 22：日野市 環境情報センター（日野市日野本町） 23：東京 YWCA 国領センター（調布市国領町） 24：社会福祉法人共働学舎（町田市小野路町） 25：日野市国際交流協会（日野市本町） 26：NPO 法人 ふみ月の会（調布市布田） 27：立川市青春学級（立川市柴崎町） 28：あきる野市社会福祉協議会 市民活動推進係（あきる野市平沢） 29：VFM 東京（青梅市） 30：いきいきふれあいフェスティバル実行委員会（青梅市今寺） 31：島田療育センター（多摩市中澤） 32：あきる野青年会議所（あきる野市秋川） 33：日本児童野外活動研究所（品川区西五反田） 34：日野・発達障害を考える会「スキッパー」（日野市多摩平） 35：特定非営利活動法人 療育ネットワーク川崎（川崎市多摩区） 6：CoCoA（豊島区東池袋） 37：社会福祉法人 ココロ学舎（西多摩郡瑞穂町） 38：社会福祉法人 至誠学舎立川 至誠ホーム（立川市錦町） 39：ボランティアグループこすもす（日野市多摩平） 40：NPO「おたすけ個別補習塾」（日野市三沢） 41：地域デイサービス テイクオフ（立川市高松町） 42：日野市障害児童クラブ（日野市平山） 43：野楽（tama Rock）（府中市是政） 44：NPO 法人 グループゆう（東大和市中央） 45：財団法人日本野鳥の会（日野市南平） 46：日野市青少年委員の会（日野市神明） 47：NPO 地球緑化センター（中央区八重洲） 48：ペットを災害から守る市民の会（立川市高松町） 49：社会福祉法人 山の子会 山の子の家（日の出町大久野） 50：すみれいきいきケアサポート（八王子市台町） 51：滝乃川学園（国立市谷保） 52：財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン（新宿区西新宿） 53：スープの会（新宿区赤城下町） 54：特別養護老人ホーム こもれびの郷（あきる野市雨間） 55：特定非営利活動法人 オックスファム・ジャパン（台東区東上野） 56：知的障害児者デイサービスグループ ばんびの会（西東京市田無町） 57：みんなの森準備会（西多摩郡日の出町） 58：任意団体日本障害者モータースポーツ協会（青梅市二俣尾） 59：医療法人社団東京愛成会 高月病院（八王子市宮下町） 60：緑地管理ボランティアの会（日野市旭が丘） 61：サポートチーム「むく」（多摩市山王下） 62：きょうだいの会（横浜市南区） 63：社会福祉法人 正夢の会 昭島生活実習所（昭島市松原町） 64：湘南自然学校（茅ヶ崎市ひばりが丘） 65：特定非営利活動法人 ECOPLUS（千代田区鍛冶町） 66：東京ローターアクトクラブ（日野市程久保） 67：NPO 法人 ここかまど（八王子市上野町） 68：東京ヴェルディボランティア（稲城市矢野口） 69：NPO 法人 野外</p>
----	-------	---

	遊び喜び総合研究所(あばれんぼキャンプ)(府中市晴見町) 70:知的障害者厚生施設(通所)すずかけの家(日野市南平) 71:ちーむ夢人間 にこにこキッズルーム(調布市小島町) 72:NPO 法人 ACTION(武蔵野市境南町) 73:特定非営利活動法人 フレンドシップキャンプ(中央区築地) 74:公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会(新宿区大京町) 75:NPO. JRC ちびっこ龍馬元気の会(高知県高知市帯屋町) 76:NPO 法人 CES 八王子生活館(八王子市南町) 77:社会福祉法人 多摩養育園(八王子市八木町) 78:介護老人保健施設 クローバー(日野市東平山) 79:社会福祉法人 東京援護協会 サルビア荘(町田市図師町) 80:特定非営利活動法人 花岡児童総合研究所(三鷹市上連雀) 81:日野市立 はくちょう(日野市日野台) 82:日野市 少年学級(日野市程久保) 83:社会福祉法人 同愛会 日の出福祉園(あきるの市秋川) 84:国際ボランティア学生協会(世田谷区宮坂) 85:虹のセンター25 (昭島市朝日町) 86:特定非営利活動法人ナイス(新宿区新宿)
--	--

◆明星大学ボランティアセンター運営委員会の構成 (2012年5月末現在)

役 職	氏 名	所 属
センター長	渡戸 一郎	人文学部 人間社会学科 教授
副センター長	吉澤 秀二	理工学部 総合理工学科 環境・生態学系 教授
センター長が必要と認める者	黒岩 誠 加藤 めぐみ 星山 麻木 菱山 覚一郎 安田 満 川原 万人 榊原 八郎 名取 淳 村山 光子 吉川 和博	人文学部 心理学科 教授 人文学部 福祉実践学科 教授 教育学部 教育学科 教授 教育学部 教育学科 教授 経済学部 経済学科 講師 情報学部 情報学科 講師 造形芸術学部 造形芸術学科 教授 ボランティアセンター担当事務局次長 学生サポートセンター長 青梅事務室 課長
事務局長	赤山 徹	
専任職員	吉田 雅行 畑野 理美	日野校 ボランティアセンター主幹 日野校 ボランティアセンター主任
オブザーバー	石田 健太郎 川端 伸哉 河原 孝明	教育学部 教育学科 助教 日野校 ボランティアセンター 青梅事務室

